

## CSR 委員会社外アドバイザーからのご意見

### 「お客さま起点」で、最先端に行く会社であり続けてほしい

三菱地所グループは、CSR に関し、さらに一步踏み込んだ取り組みを展開するという意味で、3つの柱をたてていますが、私は、3つが相乗効果を生み出すような方向で実践していただければと考えています。テナントと協働したCO<sub>2</sub>削減への取り組みなどの「環境経営の推進」と、「経営資源を活かした新しい社会貢献活動の推進」という2つの柱を連携させるとともに、社員がそれらの活動に深くコミットすることで、3つ目の柱である「活力のある職場の実現、活力のある人財の育成」へ発展するのではないのでしょうか。また、CSRの基本テーマである企業倫理なども重要なテーマであり続けます。難解な重要事項説明書をわかりやすく解説したガイドブックをお客さまにお渡しするなど、業界の最先端に行く活動を続けてほしい。「お客さま起点」に立った基本的な取り組みも徹底させ、お客さまからの信頼を盤石なものとして、企業の競争力につなげてほしいと思います。



高 巖(たかいわお)氏  
麗澤大学 経済学部長  
大学院国際経済研究科 教授

### 社会貢献につながる真摯な事業への取り組み

三菱地所グループは、日本経済の中心である東京・丸の内にて事業活動を行っていることから、いわば日本の顔をつくるという一企業グループを超えた重要な事業を展開していると言えます。2008年から09年にかけては、CSRの取り組みを「見える化」する努力をされています。CSRの目標と領域が明確に、つまり事業と社会貢献の接点を見出されたのだと思います。注目しているのは「空と土プロジェクト」です。地域社会、顧客、社員が一体となった、この活動の根底には、空と土があるから三菱地所グループの事業が成り立っていることを感謝しようという想いが感じられます。CSRや社会貢献というのは結果です。真摯に事業を掘り下げていけば、必ずそこにつながります。社員の皆さんの中には、CSRを「本社で進めるべきこと」と思っている方もいると思いますが、実は一人ひとりがCSRの推進者なのです。自らの業務とCSR活動は別物ではなくつながっている。そのことを理解して、問題意識を持って臨むことが大切です。



江上 節子(えがみせつこ)氏  
武蔵大学  
社会学部 教授

### ご意見をいただいて



2007年2月開催のCSR委員会より高巖氏、江上節子氏には社外アドバイザーの立場から毎回、社会動向を踏まえた的確なアドバイスをいただいています。今後とも、CSRの実践は経営そのものにとらえ、当面の展開テーマとして位置付けた活動を柱に、事業活動と結びつけながら社員一人ひとりの意識を高め、CSR活動を推進していきたいと考えています。

三菱地所株  
取締役常務執行役員(CSR推進部担当) 杉山 博孝(すぎやまひろたか)